**水稲総合防除（IPM）における管理ポイントの実践方法**

実際に総合防除（IPM）を行う際には、何を目標に、どのように取り組めば良いでしょうか?

ステップ１からはじめてみましょう。

まずは、防除効果の安定を目指しましょう。

ステップ１

〔目標〕

　・従来の農薬使用による防除体系での、病害虫雑草防除効果の**安定**

〔実践内容〕

　・前記、管理ポイントについて、これまでの病害虫雑草の発生状況に合わせて、
　　管理項目を選択して実施する。

さらに、農薬の使用量を減らす場合は、複数の管理ポイントを組み合わせて実践しましょう。

ステップ２

〔目標〕

 ・農薬使用を慣行使用成分より、一定割合以上削減する。

　　 ５割以上削減 ⇒ 特別栽培農産物認証

 注）農薬使用成分削減以外の要件があります。

〔実践内容〕

 ・前記、管理ポイントを基本事項として実践。

 ・特に、問題となる病害虫については、複数の管理項目を組み合わせて実践する。

まずは、自分が何を目標に総合防除（IPM）を取り組もうとしているのかを考えましょう！

**〔参考資料１、２〕「水稲病害虫別の管理ポイント]（広島県中部地帯）の使い方**

それぞれの病害虫について、管理ポイントを見ていきましょう。

実践できそうな項目や、どのようにしたら実践できるのかを考えてみましょう。

〔参考資料１〕「水稲病害の発生と総合防除（IPM）技術」

　＊病害防除対策で大切なことは…**『予防的な対策を適切に行うこと。』**

〔例〕

葉いもち

【基本技術】

□ 健全な苗を用いる

□ 育苗箱施薬剤を施用する

□ 肥料（窒素分）の適正施用

土壌、品種、田植期等の条件を考慮して施肥量を決定

初発生時期（６月下旬）の発生量を抑えるために実施

「健全種子利用」「塩水選」「種子消毒」を実施

トビイロウンカ

〔参考資料２〕「水稲害虫の発生と総合防除（IPM）技術」

＊害虫防除対策で大切なことは…**『要防除の判断を的確に行うこと。』**

〔例〕

【要防除基準】

□ 時期：飛来後第二世代幼虫期

□ 虫数：５頭／株以上

セジロウンカ、ヒメトビウンカと区別して見る必要がある

ほ場での発生の動きを観察して把握しておくことが大切

＊予察情報の活用

管理ほ場ごとに病害虫の発生状況が違います。

そのため、ほ場ごとに病害虫の発生状況を把握し、

それぞれに応じた対策を整理しておくことが大切です。

あわせて、「総合防除（IPM）を行うために利用できる防除技術」も

参考にしてください。

それぞれの病害虫に対して、整理したものを以下の例を参考に、表にまとめてみましょう。

１．病害防除対策の整理表〔例〕

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 病害名 | 重要度 | 既に実施している管理項目と評価 | 農薬による防除の実施内容と効果 | 農薬使用を控えた場合の影響と対策 |
| 〔例〕いもち病 | 高 | 3.種子更新・塩水選4.健苗育成7.置き苗除去〔評価〕伝染源を断つための管理は実施〔課題〕ほ場条件により過繁茂の生育 | ①種子消毒②育苗箱施薬③穂ばらみ期防除④出穂期防除⇒通常年の適正生育ほ場では、いもち病被害回避可能 | 穂ばらみ期防除を控えた場合〔影響〕葉いもちの発生状況により穂いもち多発の恐れ |
|  ○○○病 |  |  |  |  |

２．害虫防除対策の整理表〔例〕

１）飛来害虫

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 病害名 | 重要度 | ほ場での発生状況の把握方法と対応 | 農薬による計画防除の内容と効果 | 多発生時の農薬防除の判断と対応 |
| 〔例〕トビイロウンカ | 高 | ８月上旬、防除実施前ほ場で払い落とし調査で発生状況把握＊予察情報の活用 | ①育苗箱施薬②出穂期防除＊多発年では被害が発生する恐れ | ＊飛来後第二世代幼虫期、要防除水準を超えた場合、**追加防除**を実施 |
| ○○○○ |  |  |  |  |

２）越冬害虫

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 病害名 | 重要度 | 地域の発生傾向に対応した管理項目 | 農薬による計画防除の内容と効果 | 多発生時の農薬防除の判断と対応 |
| 〔例〕斑点米カメムシ | 高 | 山寄せや出穂の早いほ場で被害が多い1.出穂２週間前までに畦畔の草刈実施 | ①出穂期防除＊多発条件では斑点米被害が発生する恐れがある | ＊乳熟期、すくい取り調査で、要防除水準を超えた場合、**追加防除**を実施 |
| ○○○○ |  |  |  |  |

まずは、自分のほ場の状況を把握するなど、自分にできるところから始めてみてください。